



Alloy Therapeutics Japan

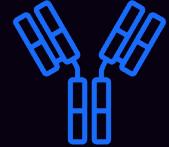
# NQ版COO人材育成プログラム

Global BioPharmaで培ってきた  
技術・ネットワーク・ノウハウを  
Nakanoshima Qrossに導入し

日本人の国民性に合ったベンチャーイノベーションを  
皆様と共に創り上げていきます

# 会社概要

Alloy Therapeuticsはボストンを本拠地とするユニコーンバイオテックです。iPS細胞治療のチームを核に新たに日本で子会社を設立しました



ANTIBODIES



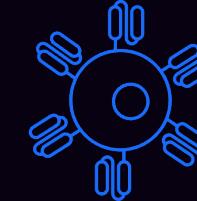
BISPECIFICS



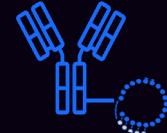
TCRs



GENETIC MEDICINES



CELL THERAPIES



DELIVERY

<b>会社名</b>	Alloy Therapeutics株式会社
<b>設立</b>	2024年11月
<b>社員数</b>	13名 (正社員11名・パート2名)
<b>本拠地</b>	神奈川県藤沢市村岡東2-26-1 (湘南アイパーク)
<b>親会社</b>	Alloy Therapeutics, Inc. (米国ボストンに本拠地) 設立2017年・社員数：110名・アメリカ・英国・スイス・日本に5つの拠点
<b>事業内容</b>	最先端の創薬技術ライセンス業務・創薬支援サービス 創薬ベンチャーの起業と運営・VC投資業務 人材育成・エコシステム構築
<b>資本金・企業価値</b>	\$134m (Paid in Capital); \$792m Post Valuation <sup>▲</sup>
<b>主力投資家</b>	Ulysees Diversified Holdings, 8VC, Mubadala Investment Co, Thiel Capital, Presight Capital

上記データはPitchbookより引用 \*2025年5月現在; ^2022年9月



自らが1,000億ドルの  
メガファーマになるのではなく、

新薬の開発に成功する  
ベンチャーを100社育てたい

バイオテック業界で「勝ち組」の治療薬は様々な知財・独占技術によって支えられてきました。そのライセンスには高額な一時金などが必要で、大手製薬会社やCash Richなバイオテックのみにアクセスが可能でした。Alloyはこの様な「飛び道具」を揃え、アカデミアや小さなバイオテックでもアクセスが可能なビジネスモデルで一つでも多くの治療薬を臨床に、そして患者様に届けることを本業としております

Alloy Japanは今まで日本のエコシステムで得られなかつた「飛び道具」をお届けします

# バイオテックを支援： Dren Bioとの提携

Dren Bioの創業者たちを紹介された当時、彼らは最初の資金調達ラウンドの真っ最中で、手頃な価格で機動力のある**抗体創薬パートナー**を探していました。最初はATX-Gxマウスプラットフォームのライセンス取得から始まりましたが、最終的にDren Bioのチームは**作業を直接Alloyに移管**し、2020年初頭に開始された当社の**抗体創薬サービスの最初の顧客**の一つとなりました。

With \$1B already in for Dren Bio, **Pfizer** adds to pile in \$65M financing

*Jun 14, 2022*

**Novartis** hopes for better luck with bispecifics via \$150M upfront Dren Bio deal

*Jul 24, 2024*

**Sanofi** pays \$600M upfront for Dren Bio's bispecific in latest immunology play

*Mar 20, 2025*

Alloy Discovery Servicesは、信頼できるパートナーであり、私たちの**チームの一部として活躍**し、現在では当社のEnhanced ADCC Programにおけるリード候補治療薬となつた抗体に大きく貢献してくれました

*Nenad Tomasevic, PhD, Dren Bio'の創業者・CEO*

<https://alloytx.com/discovering-novel-therapeutics/>

<https://www.fiercebiotech.com/biotech/pfizer-joins-dren-bio-investors-65m-series-after-1b-oncology-collab-biotech>

<https://www.fiercebiotech.com/biotech/new-growth-novartis-pharma-announces-partnership-dren-bio>

<https://www.fiercebiotech.com/biotech/sanofi-pens-19b-deal-dren-bios-bispecific-latest-immunology-play>

## 事業開始から 6 年目：個別のバイオテックから大手製薬会社に展開

**180+**

拡大し続けるパートナー  
ネットワーク

**80+**

進行中の共同創薬  
プログラム数

**\$2.5B USD**

Alloyライセンスパート  
ナーの資金調達の総額

**18**

世界のトップ製薬企業も  
Alloyと提携

**19**

パートナーが提出した  
INDの実績 (2019から)

**14**

82VS Venture Studios  
より起業の件数

アカデミアから製薬会社まで様々なパートナーとの信頼関係を築き、  
その協業を通じて数々の創薬の臨床入りを実現してきました

180+

70+

\$2.5B USD

Alloy は日本の創薬エコシステムが必要としている

技術基盤・ネットワーク・ノウハウを

VCを含むGlobal BioPharma市場で培ってきました

# 創薬支援事業から総合バイオインフラ会社に展開



今までのAlloyは**新薬のComposition of Matter**が生まれる瞬間に特化した創薬支援事業を基に成長してきました。今後は戦略投資や戦略提携を通じて**製造・臨床開発業務**に積極的に展開して行きます。開発事業との融合は**パートナー案件の開発スピード・成功確率の向上**に繋がり、また**Alloy Ecosystem**で統合するデータ・AIとの連動を**業界無二**の立ち位置に引き上げる期待があります

## 現時点までの事業

### 知財

ライセンス  
事業

### 創薬

前臨床  
CRO事業

### 起業

ベンチャー  
スタジオ

### 製造

治験薬製造  
CDMO事業

### 開発

臨床CRO  
データ事業

### エコ

エコシステ  
ム開発事業

### 財団

非営利・社  
会福祉事業

Alloyは日本のエコシステム  
に何が貢献できるか？

# ボストンから見た日本：機会と課題



3位

GDPに基づく  
経済の規模

25万人

バイオ関連の  
研究者人口

1.5兆円

国内製薬業界  
の研究開発予算

日本は数々のノーベル賞受賞者や歴代のブロックバスター新薬を輩出してくるも  
グローバルのバイオ産業と「かみ合っていない」印象も伺えます

- ・ 業界としてBiologics・抗体関連治療薬で遅れをとってしまった。日本のエコシステムでは最先端の創薬技術へのアクセスが乏しく、初期臨床治験を支えるCDMOが無い
- ・ 日本の技術要員は安定しており、データの安全性も質も高い。ここ数年で日本の技術員は労働コストでインドや中国の上位と並んだ
- ・ アメリカを中心に臨床治験コストは高騰しており、改善の兆しも見えない。それに対して日本ではリーズナブルなコストで高品質の治験が可能

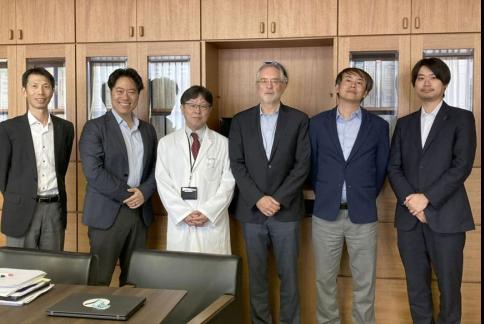
Alloyが日本の潜在的な強みを活かす仕組みを創り出すエコシステムが  
構築できればグローバルの創薬に大きな貢献ができます

# 日本のエコシステムへのコミット

Alloy Japanの設立以来、当社は日本のエコシステムのステークホルダーと面談を交わし、ご指導頂きました



湘南iParkでAlloy Therapeutics Japanとして  
2025年4月にローンチ



国立がんセンター東病院  
土井俊彦先生と当社**82VS EVP Michael Kalos**の意見交換



迫井正深医務技監・厚労省・  
経産省の皆様が  
Alloy Boston本社を訪問



Nikkei創薬サミット2025に  
ファイナリストベンチャーとして登壇



日本語学習にコミットしたAlloy本体  
のメンバーが**AMED**を訪問  
厚労省・経産省の方々も参加

日本のエコシステム関係者からのフィードバック  
**技術基盤**

日本に不足しているグローバル水準の抗体創薬技術をAlloyは補うことが  
できるのでアカデミアや中堅ファーマの支援にご要望

**Venture Studios**

日本の起業家が海外資金調達に必要なコンセプト選びやネットワークがあり  
今後創薬クラスター支援事業などの支援に参加を予定

**日本へのコミット**

日本の研究者の雇用・本社のメンバーに日本語教育の推進など総じて好評

**Alloy Japanはパートナーと共に具体的な活動に邁進して行きます**

# 日本のエコシステム事業に欠かせない82VS Venture Studios



Alloy Therapeuticsが**エコシステムの開発**に関する場合、自社の技術基盤以外に82Vベンチャースタジオの導入により「**飛び道具**」と「**推進するヒト**」が入ります

**【課題】**：ボストンやベイエリアを目指すエコシステムは多々ありますが、その殆どが**似た課題を共有**。大学の技術・投資資金や助成金は豊富・サイエンスパークなどが「場」を提供し、マッチングや有識者の講演などイベントも多々ありますがなかなかバイオテックが育たない

**【課題】**：Alloyは上記のようなエコシステムに「**飛び道具**」と「**推進するヒト**」の**二つが不可欠**と考えます。飛び道具は自社の技術基盤で補うことが可能ですが、推進するヒトは容易に集まりません

**【仮説】**：82VS Venture Studiosが中之島Qrossで「**NQ版COO人材育成プログラム**」を設け現地でリクルートし育成します。この企画は既に**アメリカのダラスで実施**されており、**日本では初めて**の実施になります

・82VS Venture Studiosでは新人の起業家・COOを養成するためのマニュアルなどが整備されており、**実体験を通じて**起業・運営を学んでいきます (**Apprenticeship**)



日本語学習にコミットしたAlloy本体のメンバーが**中之島クロス**で  
**澤芳樹先生**と訪問

# Nakanoshima Qross版 COO人材育成プログラム

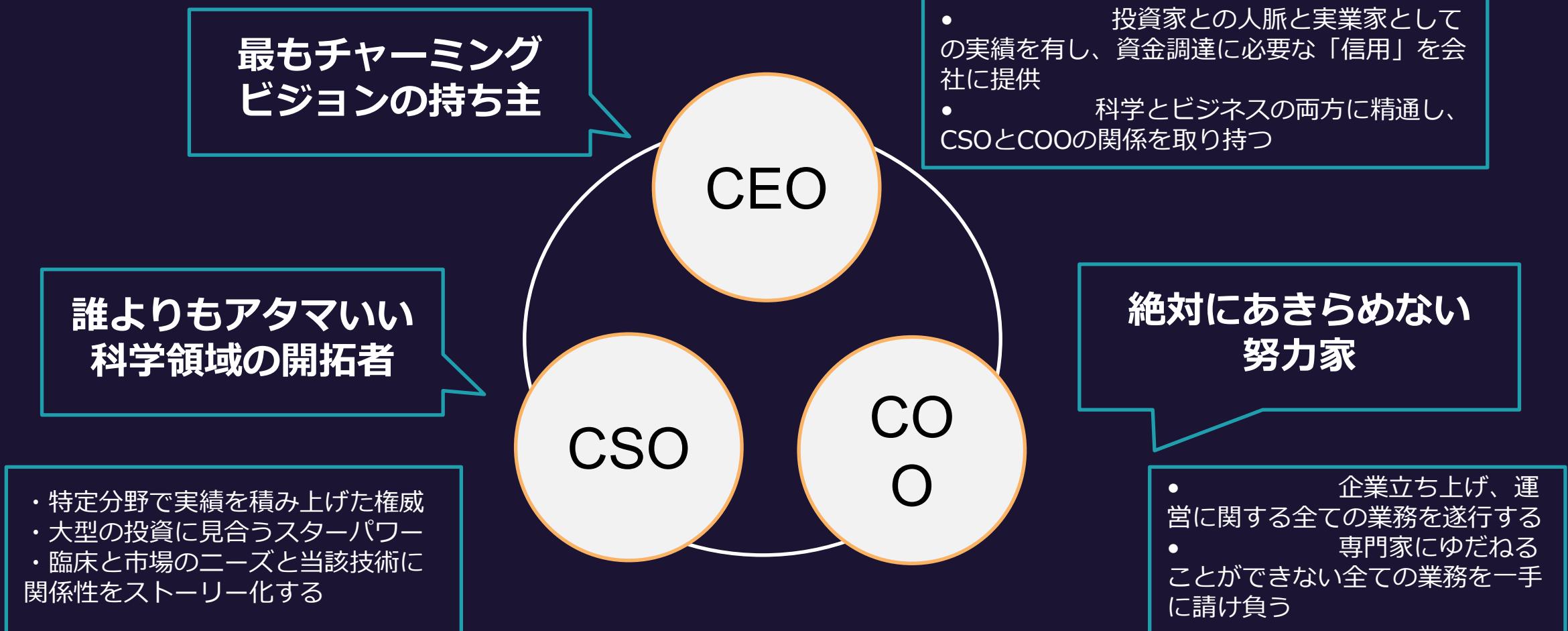
概要	<ul style="list-style-type: none"><li>9週間の社会人向け研修プログラム</li><li>3回に渡る金曜・土曜に行う1.5日間の「合宿」</li><li>平時時間外にオンライン授業（60分）</li></ul>
受講生	20名の受講生・傍聴生のオプションあり a)バイオテック領域スタートアップにてビジネス開発・運営業務に従事している方 b)バイオテック領域において起業に興味を関心を有する下記条件のいずれかに合致する方
対象	<ul style="list-style-type: none"><li>アカデミアや製薬会社で一定の学術経験を積み上げた研究者</li><li>製薬業界・一般事業会社で一定の業務経験を積み上げたビジネスパーソン</li><li>コンサル・金融業界で一定の業務経験を積み上げたビジネスパーソン</li></ul> <p>※Nakanoshima Qrossに入居済、入居予定のスタートアップに関与される意欲のある方が望ましい</p>
講義内容	<ul style="list-style-type: none"><li>創薬ベンチャーを原型としたバイオテックの起業と運営</li><li>Focus on Ideation to Series A Financing</li></ul>
講義のモダリティー	<ul style="list-style-type: none"><li>受講生同士のディスカッションを促すケースメソッド</li><li>BioPharma産業で功績を挙げられた方々とのパネルなど</li><li>業界のプロによる講義（プレゼン形式）</li></ul>
期待するアウトプット	中之島Qrossを中心とした創薬エコシステムの強化

創薬ベンチャーに「興味があるけれどもう少し知りたい」と思う方々

既にベンチャーに関わっていてスキルアップを求める方々

創薬ベンチャーに向けた「伴奏支援」に関わる方々に向けられた研修プログラムです

# Alloy 82 VS Venture Studiosが信じる「COO」と言う役職



# Nakanoshima Qross版 COO人材育成プログラム

	ビギニング	中間点	卒業
タイトル	サイエンスが患者様に届くまで アカデミアからベンチャーへ 製薬会社から社会へ	ベンチャーの立ち上がり 選ばれるテーマと 見送られるテーマの違い	そして世界へ ベンチャーの航路を担うCOO グローバル市場とSeries A
ディスカッション	社会に求められている創薬 TPPの概念	VCファンドの仕組み VCの都合・起業家の都合	FAST PILOTS 金融市場が必要とするベンチャー
パネル	製薬業界から見た創薬エコシステム	VCから資金調達が得られるまで	VCファンドから見た創薬エコシステム
チームプロジェクト	投資テーマを調査	投資案件の企画	ファイナルプレゼン
講義	産業レベルの創薬とは	CMC・IND・臨床治験まで	
オンライン講義	モダリティーの紹介 低分子・次世代抗体・オリゴ	バックオフィスの考え方 法務・会計・人事	

当プログラムは国内ではNakanoshima Qrossでしか受講のできないNQオリジナルプログラムです

# NQ版COO人材育成プログラムの希望

NQ版COO育成プログラムはベンチャーの概念と「そもそも」を重視します

- ・ ベンチャーを成功させる「地図」を持ち「やればできるんだ」と思ってもらいたい
- ・ 大切な時間のコミットを本当に求められている治療薬に使ってもらいたい
- ・ VCを含んだグローバルBioPharmaとの情報の格差で負けて欲しくない

本プログラムを通じてベンチャーに関わる仕事は本当に充実した仕事と思ってもらいたい

日本の国民性に合ったベンチャーイノベーションとはどんなものか？

それを皆さんと議論しながら編み出して行きたい。これがNQ版COO人材育成プログラムです

# Nakanoshima Qrossのウェブサイトより基本情報登録ください。

~~第1次公募（2025年11月25日（火）18時）は終了しました~~

**2次公募：**多数のお問い合わせをいただいており、**追加で5名を公募することとなりました。**

公募締切（エントリーおよび追加資料の提出）は**12月1日（月）18時**とします。

どうぞ奮ってエントリーくださるようご案内いたします。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdZ8qNtWIWHkdSnoHurV-qh8MPBj7TNEbl9BroEbLfD1qEQSQ/viewform>

## 登録に必要な基本情報

1. 所属組織名・役職
2. 氏名
3. 氏名（ローマ字）
4. メールアドレス
5. 電話番号
6. 住所（都道府県）

1. 現在関わっている研究・事業内容
2. これまでの学術研究もしくは業務履歴（注：個人の経歴をweb等に公開できること）（様式は問いませんので、ご自身のこれまでの学術研究や業務履歴がわかるものをアップロードください。）  
※どういう背景の方が参加されているか、ということが分かる程度にサマリーをしますので、採択後にご本人と確認をしながら作成します。
3. 英語対応レベル（読み書き・会話）
4. 本プログラムに期待すること

## ご確認事項①：選定審査について

別途で定める審査基準に沿って、必要に応じて対面審査（状況によってはリモート会議）を実施します。

## ご確認事項②：12月5日(金)オンライン・キックオフイベントについて

第1期生としてNQ版COO人材育成プログラム受講者に選定された場合、

12月5日(金) 12:00-13:00に開催予定のオンライン・キックオフイベントにて自己紹介をしていただきます。

補足事項：登録に必要な事項はすべてGoogleフォーム上で完結しますが、必要に応じて追加資料をお願いする場合があります。

未来の医療を、共に築く

